

会 議 録

会 議 名	令和4年度第2回東浦町中央図書館協議会	
開 催 日 時	令和5年3月24日(金) 午後3時00分から午後4時20分まで	
開 催 場 所	東浦町中央図書館2階 大会議室	
出 席 者	委員等	杉浦 恵子氏、成田 幸治氏、浅井 真司氏、橋本 記江氏、 松橋 秀親氏、小田 薫氏、月原 康雄氏、西村 加絵氏
	事務局 (生涯学習課、 株式会社図書館 流通センター)	庄子教育長、石川教育部長、佐東課長、関課長補佐兼係長、 長谷川主事、島津図書館長、大西副館長、平松サブチーフ
議 題 (公開又は非公開の別)	1 令和4年度事業報告について(資料1) (公開) 2 令和5年度事業計画について(資料2) (公開) 3 その他(公開)	
傍聴者の数	0名	
審 議 内 容	<p>◆図書館長 資料確認を行う。 会議の成立について報告する。</p> <p>次第に従って会を進める。</p> <p>◆教育長 (挨拶)</p> <p>◆委員長 (挨拶)</p> <p>以降は委員長が議事を取り回す。</p> <p>◇委員長 次第に従い議事を進める。議題1「令和4年度事業報告について」を議題として、図書館長からの説明を求める。</p> <p>◆図書館長 資料1にもとづき、令和4年度事業報告について説明する。</p> <p>◇委員長 図書館長の報告を受けて、委員の質疑を募る。</p> <p>◇委員長 おしえてアンケートはどのようなアンケートなのか。</p>	

◆事務局

お菓子の本の特集展示に併設して、自分の好きなお菓子について回答してもらい、「東浦のみんなが好きなお菓子ランキング」を作る、利用者参加型のイベントである。調査目的のアンケートではない。

◇委員

おしえてアンケート参加人数 81 人に対し、回答が 256 件とあるがどのような数字か。

◆事務局

複数回答ができるアンケートのため、記入項目よりも多く記入する参加者がいた。複数回答数が含まれるため、256 件という数値になっている。

◇委員

読書感想文講座について、他市町での開催状況はどうか。
このような講座を開催すると家庭で喜ばれると思われる。
今後の実施についてはどのように考えているか。

◆事務局

他市町の図書館では、感想文の講座をあまり開催していない。
図書館では継続して感想文関連講座を行っていきたいと考えている。
次年度は、選び方講座・書き方講座を実施する。

◇委員長

民間では行っているが、公共図書館で実施している感想文講座は少ないのではないかとと思われる。

◇副委員長

よむらびコンサートについて、コロナ禍による人数制限が残念であった。
今後開催スペースを広くして参加人数を増やすことは可能か。

◆事務局

ゆめらびコーナーでは、コロナ禍では 50 名が限界であるため増員は難しいと思われる。今後、状況が変われば定員を増やすことも検討したい。

◇委員

多くの人に参加してもらいたいと思えるイベントである。
人数に制限があるのであれば、より多くの人に参加できるよう、開催の回数を増やしてはどうか。
追悼特集やWBC優勝コーナーなど、今年度は特に図書の特集展示がタムムリーな内容で素晴らしかったと思う。今後の一般向けや児童向けの特集展示に期待している。

◆事務局

コンサートについては検討事項である。特集展示については今後も力を入れていきたい。

◇委員長

議題1について締め切り、議題2「令和5年度事業計画」について、図書館長へ説明を求める。

◆図書館長

議題2「令和5年度事業計画」について図書館長から説明。

◇委員長

事務局の報告を受けて、委員の質疑を募る。

◇委員

在架予約の開始は、どのような分野を予約対象とする予定か。
電子図書館の利用促進について、大学でも電子書籍の購入が進んでいる。大学と公共では異なると思うが、講義で使用する際に教員から電子書籍の案内をしてもらうなど、学生の利用機会を増やすことで利用増加に繋がっている。小中学校でも利用案内を依頼してはどうだろうか。

◆事務局

禁帯を除く、すべての分野が対象になる。
大学の教科書は電子化されつつあるため、学生のニーズは満たされていると思うが、公共図書館の場合、利用者にニーズのある資料はなかなか電子化されないという実情がある。商業向け電子書籍をうまく活用して、PRしていきたい。

◇委員長

学校現場では、電子書籍についてどのように捉えているか。

◆教育長

教科書が電子化されつつあるが、知多地区では電子教科書は採択されていないため、授業の活用となると難しい。読書のすべてが電子書籍となるのは反対である。
紙も電子も、どちらもうまく活用していけばいいとは思っているが、一律にというのは、なかなか進まないと思われる。

◇委員

同意見である。読みやすい本が電子書籍化されるのであれば、ぜひ活用してほしいと思うが、一律での導入というのは難しいのではないか。

◇委員

デジタルでしか読まなくなり、紙媒体の資料に触る機会が減ることが懸念される。従来の紙のページをめくる読書も成長の大切なステップである。電子タブレットを上手に使うことができれば良いが、子どもたちにとって、

要不要にかかわらず情報があまりにもあふれすぎている。
また、マンガのみを読む子どももいると想定すると扱いが難しい。ただし、ルビ機能がついていると外国籍などの日本語にあまりなじみのない子どもたちも読書に触れることができる機会が増えるため、良いことだと思う。

◇委員長

時期尚早ということだろうか。

◆教育長

尚早というわけではないが、一律では難しいと思われる。

◇委員

町内の小中学生は、電子タブレットを1人1台持っているのか。

◇委員

1人1台、町から子どもたちに配布されて所持している。

◇委員

補足となるが、大学では全てを電子書籍で賄っているということではなく、1冊の資料を複数の学生が利用したい時に、電子書籍であれば自由に見ることができるという案内をしている。電子の本、紙の本の良さを指導したうえで選択肢の1つとして提示することで読書への興味に繋がるのではないか。そのため、ツールを伝えることが重要と思われる。

◆図書館長

現場の意見を聞くことが聞けて大変感謝している。

子どもの読書量は、親の読書量にも比例するという統計も出ている。電子書籍があるとはいえ、やはり紙の本が読書の選択肢の第一と考えている。電子書籍は、デジタルネイティブの子どもたちにとって、よい読書体験のきっかけのひとつとなってほしい。また、家庭では子どもたちにタブレットを渡したくないという保護者もいる。そのような家庭にも配慮した公共の電子図書館を選書にも工夫をこらし作っていきたいと思っている。

◇副委員長

リサイクル本コーナーについて、図書と雑誌のリサイクルフェアとは別に設置するのか。

IC タグの貼付の対象となる資料は、高額資料のみと考えているか。

◆事務局

そのように予定している。

図書館が所蔵する全ての資料、約17万冊に貼付を計画している。

◇委員長

リサイクルフェアとリサイクル本コーナーの本には違いがあるか。

◆事務局

違いはない。町民から提供された寄贈本と図書館のリサイクル本が対象である。大量の本をリサイクルフェアまで保管するスペースの確保が負担となっているという実情もあるが、利用者のリサイクル本のニーズも考慮して、今後は定期的にはリサイクル本を提供していきたい。

なお、リサイクルフェアで提供する本については年3回の除籍のタイミングで確保しているため、コーナーができたからといってリサイクルフェアの本がなくなるということではない。

◇委員

子ども向けホームページはどのようなものか。学校教育の中で活用できる内容が含まれているか。

◆事務局

たとえば、図書館の使い方を解説するページや、見学が電子タブレットで体験できるコーナー、あるいはクイズなど親しみやすい児童向けコンテンツを掲載する、などを案としてあげている。

◇委員

学校の中でそのホームページは教えてもらえるのか。

図書館は興味がある親子が図書館ホームページにアクセスするのみとなるので、先生に授業で使ってもらいたい。

3年生の見学時に案内する予定があるのか知りたい。

◆事務局

完成したら学校に案内したいと思っている。

◇委員

家庭によって周知にむらができるため、学校教育や見学時など生徒全員がいる場で紹介してもらえたらありがたい。

◆事務局

計画に加えたい。

◇委員

電子タブレットのショートカットに図書館の子ども向けホームページのアイコンがあればアクセスしてもらえるのではないかと。

◆事務局

反映することは可能だと思うが、電子タブレットを契約している業者次第のところがある。二次元コードを作成し、手動でアクセスするということができれば図書館で実現可能かと思われる。

◇委員

業者が遠隔で各児童の電子タブレットに、一括してダウンロードすることができれば可能ではないだろうか。

◆事務局

可否については、やはり業者次第となってしまうところではあるが、環境を整えることができれば実現できるのではないかと。視野に入れて行きたいと思う。

◇委員

よむらび電子図書館の活用について、読みたいと思っても人気の本はすでに誰かが読んでいて、思うように本を手にとれないということがある。電子書籍の欠点・利点はそれぞれあるとは思いますが、同じ本に興味を持つ子どもたちが同時に読むことができたなら感想を共有できて良いと思う。

◆事務局

選書の参考にさせていただく。

◇委員長

議題2についての質疑を締め切り、議題3「その他」について、事務局へ説明を求める。

◆図書館長

鶴見大学文学部の設立60周年記念論文集の制作にあたり、初代文学部長であった久松潜一先生について調べる中で、当館のホームページを発見し、先日、関係者2名が来館された。展示内容の説明と関連資料を渡したところ、「東浦町郷土の偉人 久松潜一先生 久米常民先生」は子どもたちが地域に愛着を持つ上で非常に優れた副読本である、とお褒めの言葉を頂いた。また著述目録は今まで未確認の資料がみつき大変喜ばれた。貴重な地域資料を広めつつ、令和5年度も運営を続けていく。

◇委員長

その他の案件がないことを確認し、議事の終了を宣言。

◆事務局

事務連絡を行い、会議の終了を宣言する。